

新春についての 雑感



滝川市医師会
滝川市立病院

まつ かわ まさ のり
松 川 雅 則

普段何気なく読んでいた医師会の雑誌に、自分の文章が掲載されることになるとは夢想だにできなかった。

卯年生まれの会員から無作為で選ばれたようだが、旧暦に従えば自分は寅年で少し複雑な心持ちでもある。しかも、新春随想という題目である。

木々は落葉の時期を迎えたとは言え、積雪にはもう少し間がある時期に、新年の随想を書くというのは、ちょっとした想像力が要求される。

ここ暫く、自分にとっての新春というのは、大掃除がようやく終わって、まとまった休日が取れる寒い時期というのが、正直なところである。

休日とは言っても、初詣には行くので半日は潰れてしまう。朝になると神棚にお供えをして、一家揃って柏手を打ち、届いた年賀状のうち送ってないものがあるかどうか調べる。何をどうしようと決心したかはすぐに忘れてはしまうが、新年の抱負を考えたりする。雪が降ってれば雪かきをして、積雪が多ければ庭木が折れないように雪下ろしも必要だ。

自分は指が黄色になりやすく、ちょっと蜜柑を食べると黄疸ではないですかとよく人に指摘される。その度に、柑皮症ですと説明を繰り返すのが面倒なので蜜柑の食べ過ぎを我慢する、が結局食べてしまう。

寒さも本格化して電気代の支払いも嵩み、家を建てる時にオール電化にしなきゃよかったと後悔しつつ、補助に使っているストーブの灯油代も馬鹿にならないなどと、独りごちる。油価が高いのはロシアの戦争のせいだと憤り、ウクライナの人々は寒空に不自由していないかと、世界の問題に思いを致す時間も必要だ。

多少関連のないものまで列挙してしまったが、新春というのは結構忙しいものである。しかも、折角の正月だからと、なかば強迫観念に苛まれて昼間から酒を飲んで、休んでいる感を出す。これでは、休むのも一苦勞である。正月というのは、夏休みとは違って、行事やら決まりごとが多く、むしろ休めないように仕組まれている感すらある。それを仕組んでいるのは慣習か文化か、その強制力にも似た行動変容原理は何かなどと、似非学問的考察をする時間も必要であろう。

さて、ここまで書いてきて、過去の新春随想の文章を拝読した。新春自体をテーマにしなくても良いことが分かり愕然とする。書く前に読むべきであった。こうした我が身の愚かさをどうしたものか、新春にすべきことの一つに加え、考えてみることにしよう。

還暦を迎えるに あたって思うこと



上川北部医師会
しべつ内科クリニック

い で ひろし
井 手 宏

この新春随想の執筆依頼が来たということは、今年が卯年で年男ということか？と気づかされ、還暦を迎えるにあたって思うことを書くことにしました。

還暦とは「60歳を迎える方の長寿のお祝い、およびその年齢」だそうで、長寿の祝いということはずでに長生きしたということで、残りの人生はカウントダウンに入ったということでしょうか？

確かに最近、腰痛はもちろん、尿路結石症になったり、白内障の手術をしたり、良性発作性頭位めまい症と思われる症状が出現したり、徐々に体は老いてきていると実感しているこの頃です。

開業してちょうど10年が経ち、一線を離れたこの10年の間の医療の進歩は素晴らしいもので、右眼の白内障の手術のついでに両側に多焦点眼内レンズを挿入してもらい超ド近眼も、老眼も解消し、コンタクトレンズも眼鏡も必要のない快適な生活を送らせていただいております。1年早く白内障の症状が出ていたら、こんな便利な眼内レンズはなく何らかの眼鏡が必要だったと思うと幸運に恵まれたと思います。

専門としていた肺癌をはじめ、あらゆる悪性疾患の治療も様変わりし、かなり予後が良くなったものです。少しでも病気にならないよう、また、健康寿命を保つために運動は必要と考え、数年前より電動ウォーカーの上を1時間歩くことを日々の日課としています。

飽きずに続けるためにビデオを見ながら歩いています。もともと時代劇が好きでU-NEXTなどで大河ドラマをかなり古いものまで制覇してきています。最近観た天地人の中で比較的長生きしたと思っていた直江兼続も60歳で亡くなりました。織田信長は49歳で亡くなっており、豊臣秀吉も長生きしていたと思っておりましたが62歳で亡くなりました。

毎日、80代、90代の患者さんをたくさん診ていますが、果たして自分はいくつまで生きられるのかと思うとため息が出てしまいます。とりあえずは前田慶次（利益）、徳川家康が生きたとされる73歳を目標にしようかと、ふと思いました。